

A パウロの心 ガラテヤ 4:12

❖ なることへの挑戦

- パウロはまず理性に訴え、次にお願ひし、ガラテヤ人の心に呼びかけている。
- ガラテヤ人はパウロの霊的な子供であったが、彼らのしていることを見ていると、パウロは自分の働きが無駄になったように思えた。彼は彼らが再びキリストにつながるができるように、もう一度彼らを「産もうと苦し」まなければならなかった。(ガラテヤ 4:19)
- 彼らは成長を止めたので、全く変えられなければならなかった。キリストが彼らの中に再び形作られなければならなかった。

❖ 私のようになること

- 今回パウロはただ真似する以上のことを求めている。アグリッパ王に呼び出された時のように(使徒言行録 26:28-29)、パウロはガラテヤ人に対して、自分のように行動するのではなく、自分のようになってもらいたいと頼んだ。
- パウロは彼らに自分と同じようなクリスチャン生活と、同じような救いの喜びと、同じようなキリストとの交わり、、、を経験してもらいたいと願った。

❖ 私もあなた方のようになったのだから

- パウロは地域に合わせて伝道する才能があった。彼は福音を伝える相手に合わせて伝道した。
- 彼は哲学者たちには知恵を持って語った(使徒言行録 17:16-34)。ユダヤ人にはユダヤの儀礼を持って語った(ヘブル書参照)。不品行なコリント人にだけはキリストの十字架について語った(1コリント 2:2)。彼はユダヤ人であったが、異邦人に宣べ伝えるために 異邦人になった。

B 当時と現在 ガラテヤ 4:13-15

- ❖ パウロは目の病気のためにガラテヤにとどまった。そしてその機会を利用して信仰をコリントの人たちに証した。彼らはパウロを愛し、できるなら自分たちの目をえぐり 出したいと願ったほどだった。(ガラテヤ 4:15)手紙の終わりにパウロは、自分はまだ目の問題を抱えていると述べている。(ガラテヤ 6:11)
- ❖ パウロはガラテヤ人が福音の真理を知った時の喜びの気持ちに訴えている。この喜びは消えてしまったのだろうか。

C 真実を語る ガラテヤ 4:16-20

- ❖ パウロは、たとえ関係が悪くなるようなことがあっても、ガラテヤ人の行動と向き合う決心をしていた。
- ❖ 彼の動機は純粹だった。彼はガラテヤ人を愛していたので、信仰の息子たち、娘たちが失われないように望んでいた。
- ❖ 彼の態度は利己的な理由でガラテヤ人の愛情を得ようとした偽教師とは対照的だった。(ガラテヤ 4:17)